

▲最近電報

原籍 受知縣葉農郡木曾川町
字玉ノ井宮東一番地
淺野慶一 明治二十九年生
福井縣今立郡暇間村藤
第1號八番地
乙部富士太郎 明治十二年一月十日
右の者の現住所御承知の御方
至急當當ます御一報りりたし
大正十四年四月十三日
在都市
帝國總領事館

ルターレズ
ブルガ フランシスコ・カルモナ
ロドリゴ・ジオラモンテ・アドリウ
上地
線バクリ等より貳キロ半アル
ノマデ全四拾壹キロノ
ノ信協、殖民地と境界開拓ム
トロフォミランダ耕地を継承ム
サツバ駒よりエスピニ
るものと二つの自動車道の
動車道開設中なり(約廿
過す)
る一區域に付百収拾針より七百
三、四ヶ月賦相談に依り
ノ信協、殖民地と境界開拓ム
トロフォミランダ耕地を継承ム
サツバ駒よりエスピニ
ものと二つの自動車道の
動車道開設中なり(約廿
過す)
照會次第御回答を
aquim Franco Mello
竹内禮賀
上塚第二殖民地居住
エヌチャ リンス町小學校向ひ
取扱人 鈴木昌吉
郵局 一四
わら照會次第御返事可認候
旅客 船貨 ロレンコント
細は左記代理店へ御問合せ被下
Antunes dos antos &
Jesse Bonifacio 17
Lamport & Holt Ltd
Av. Rio Branco, 21-23 Rio
Saldanha, 82, 2 and. Paulo
原田敬太
Anas ecio L. S. mocaban

尋人

パカリスタ水力電氣株式會社技師

土地提推

10

(三)

輸出貿易所見

B. F. 生投

(二) 調 呂譯

聖州に於ける
愁んな眞合だつたものだから
聖州の輸出業者は誰もから申し合せた様に自分達の港であるサントスを抛り放しにして距離がら云つたら七倍からあるリオ港へ送り出すと云ふ珍現象を呈す
ることになつた。尤も其二年程前州政府がサントスの埠頭を改良したい港も擴張したいから入費を負担して異れないと聯邦政府に相談を持ちかけたのだが聯ちやん何時かな頭を縋にふら此時に一噸の米をリオセントスへ送つたとしてされだけ
の差異があつたかと云ふに人夫賃カルガ運搬貨倉庫税費運賃等を合してリオ右十七ミル七百五十レース、サントス行十六ミル四百五十レースで僅かに一
ミル三百の差だ。それに船賃を見積つたら歐洲行の貨物は嫌でもリオへ持つて行かねはならぬんだからサントスからの輸出報告も滿更の作り言ではない許りでなく現在其儘に行はれてゐるんだから農務長官の見積の増加率が州産業界の發達せ
るに比して甚だ思はしくないのも大いに理由があると云はねばならぬ。

斯様に聖州産業の發展に對しては幾多の甚だしい妨害があつた。即ち一九〇三年には珈琲の最も不作な年であつたにも拘らず伯國總輸出額の二十三パーセントに達し此景況は一九〇四年に於ける

一九〇五と續き翌一九〇六年及

七年には一躍四十パーセントに

から漸次下向くなり一九一八年には五〇、一九二四年には五

一九二五年には更に四十七

パーセントに昂進したがそれ

まで

一九一一年には更に四十七

パーセントに昂進したがそれ

まで

